

ドクターに聞きました

# 健診について

## 健診と検診の違い

健診は健康診断の略称で、診察および各種の検査で健康状態を評価することです。病気になって検査を受ける場合と違って、未病の状態で病気が潜んでいないかを調べるもので、健康の維持や病気の予防・早期発見にとって非常に重要です。

検診とは本来特定の病気の発見を目的として行うもので、例えばがん検診を指します。検診の中には年齢別に定期健診に含まれるものもあり、一部負担金の出るものもありますが、一般的には有料なため精密な検査となると人間ドックで行うこととなります。

健診には『法令により実施が義務付けられている』ものと受診者の意

思で『任意に』行われるものの2つがあります。『法令により実施が義務付けられている』ものには年1回の定期健診（一般健診）と付加健診があります。年齢によって受けられる付加健診としては乳がん・子宮頸がん検診があり、肝炎ウイルス検査も希望者は受けられます。厚生労働省は医療費抑制の意味からも健診を奨めています。

## 最新MRIによる安全な精密検査

人間の体の中をみる医療器械としてはX線装置が一般的に使用されています。バリウム検査の時のX線透視や乳癌検診で行われるマンモグラフィ、さらにCTもX線装置ですが、これらのX線装置は被ばくとい



医療法人 有吉クリニック 理事長  
有吉テラライトクリニック 理事長

## 有吉 俊一 先生

東筑高校 長崎大学医学部 卒業  
日本麻酔科学会専門医  
日本ペインクリニック学会専門医  
日本医師会認定産業医  
日本医師会認定健康スポーツ医

### 書籍

「自分の身体は自分で守る」  
現代書林 2008年出版  
「厚生労働省の罪と功」  
現代書林 2015年出版

う問題がありますので、その使用は慎重に行わなければなりません。また全身のがん検診に使用されているPETも放射性物質を静脈注射して、それががん組織に集中する様子を調べる方法ですので、やはり被ばくという点ではX線装置以上の問題があります。その一方で近年、超音波（エコー）やMRIが普及するようになってきました。これらの機械は音波や磁気を利用して検査を行うため、被ばくの心配がないため多くの医療現場で使用されるようになってきています。とくにMRIの普及は著しく、乳がん検診ではマンモグラフィよりもはるかに高い検出率があるため、海外では多く使用されるようになってきています。ただMRIで使用される造影剤には体内に金属が蓄積する

ことが問題となってきたおり、この意味ではMRIによるがん検診にも制限がありました。今回、ドゥイブス法と呼ばれる撮影法によって、造影剤を使用しなくても1.5テスラのMRI装置により鮮明ながんの画像が得られるようになったため、当院ではこの装置を導入しています。乳がん検診ではマンモグラフィのように服を脱いだり、痛い思いをすることもなく検査を受けることができますので、特に女性に優しい検査法だといえます。また、MRCP検査（MR胆管膵管撮影と言い、胆汁や膵液の撮影を強調して撮影する方法）では、やはり造影剤を使わずに、通常の検診では発見が難しい「膵がん」「胆管がん」についても検査が可能です。